2027 年度　ツカザキ病院内科専門研修プログラム

目次

1.理念・使命・特性 1
2.募集専攻医数 3
3.専門知識・専門技能とは 5
4.専門知識・専門技能の習得計画 5
5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス 9
6.リサーチマインドの養成計画 9
7.学術活動に関する研修計画 9
8.コア・コンピテンシーの研修計画 10
9.地域医療における施設群の役割 10
10.地域医療に関する研修計画 11
11.内科専攻医研修 11
12.専攻医の評価時期と方法 12
13.専門研修管理委員会の運営計画 15
14.プログラムとしての指導者研修（FD）の計画 16
15.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理） 16
16.内科専門研修プログラムの改善方法 16
17.専攻医の募集および採用の方法 17
18.内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件 18
ツカザキ病院内科専門研修施設群 19
ツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会 87
専攻医研修マニュアル 89
指導医マニュアル 96
別表１　ツカザキ病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標 99
別表 2 100

1.理念・使命・特性

当院は姫路市西部に位置し，中播磨・西播磨医療圏の急性期医療，救急医療の中核として活動している病院です．病床数 386 床（含 HCU8 床，SCU18 床）と中規模ではありますが，急性期一般病院として診療密度の高い地域医療をおこなっています.

<理念>

1） 本プログラムは，兵庫県西播磨医療圏～中播磨医療圏西部の中心的な急性期病院であるツカザキ病院を基幹施設とし，兵庫県中播磨医療圏にある連携施設と関西広域の種々の機能を持つ連携施設共同で内科専門研修を行います．該当地域の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように訓練し，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います.

2） 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.

内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して,可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験が加わることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

<使命>

1）兵庫県中播磨医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，①高い倫理観を持ち，②最新の標準的医療を実践し，③安全な医療を心がけ，④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2）本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，

地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

<特性>

1) 本プログラムは，兵庫県中播磨医療圏西部の中心的な急性期病院であるツカザキ病院を基幹施設として，兵庫県中播磨医療圏と関西広域の種々の機能を持つ連携施設で内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は原則、基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間になります.

2) ツカザキ病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします.

3) 基幹施設であるツカザキ病院は，兵庫県中播磨医療圏西部，西播磨医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核であり，地域に根ざす第一線の病院でもあります．コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

4) ツカザキ病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 2 年目の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します.

5) 専攻医 2 年修了時で，「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（別表「ツカザキ病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照).
基幹施設であるツカザキ病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で，

「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（別表「ツカザキ病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照)．

<専門研修後の成果>

内科専門医の使命は，①高い倫理観を持ち，②最新の標準的医療を実践し，③安全な医療を心がけ，④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2）内科系救急医療の専門医
3）病院での総合内科（Generality）の専門医
4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

ツカザキ病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，兵庫県中播磨医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

2.募集専攻医数

下記 1)～7)により，ツカザキ病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 9 名とします．

1）ツカザキ病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 14 名の実績があります．
2）剖検体数は 2024 年度 3 体、2025 年度 4 体の実績があります．

表．ツカザキ病院診療科別診療実績

診療科別	入院患者数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
循環器内科	1,504	5,599
消化器内科	1,388	8,775
神経内科	364	11,546
総合内科・呼吸器	494	4,357

疾患群別	入院患者数 （人/年）
総合内科	237
消化器	407
循環器	562
内分泌	1
代謝	42
腎臓	37
呼吸器	230
血液	25
神経	266
アレルギー	13
膠原病	1
感染症	46
救急	349

3）内分泌，代謝，腎臓，血液，アレルギー，膠原病領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含めて，1 学年 9 名に対し十分な症例を経験可能です.

4）総合内科，循環器内科，消化器内科，神経内科の専門医が在籍しています（P.19「ツカザキ病院内科専門研修施設群」参照）.

5）1 学年 9 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.

6）連携施設には，地域基幹病院および地域医療密着型病院の計 34 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です.

7）専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，120 症例以上の診療経験は達成可能です.

3.専門知識・専門技能とは

1）専門知識

専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2）専門技能

内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4.専門知識・専門技能の習得計画

1）到達目標（P.99 別表 1「ツカザキ病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします.

内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します.

○専門研修（専攻医）１年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます.

・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します.

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます.

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います.

○専門研修（専攻医）２年:

·症例：「研修手帳（疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以上の経験をし，J-OSLER にその研修内容を登録します.

·専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します.

·技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.

·態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）３年:

·症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します.

·専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します.

·既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します.

·技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます.

·態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります.

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします．J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します.

ツカザキ病院内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します．一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

2）臨床現場での学習

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記１）～5）参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします．

①内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

②定期的に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます．

③総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます．

④平日，夕方の救急当番時間帯には内科疾患の救急に対応し，内科領域の救急診療の経験を積みます．

⑤当直医として救急患者，病棟急変などの経験を積みます．

⑥必要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します．

3）臨床現場を離れた学習

１）内科領域の救急対応，２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，４）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，５）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します．

② 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会

③ 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（2025 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）※内科専攻医は年に 2 回以上受講します．

④ CPC（基幹施設 2024 年度実績 3 回）

⑤ 研修施設群合同カンファレンス（2025 年度実績：年 3 回）

⑥ 地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績：年 3 回）

⑦ JMECC 受講（姫路連携施設群で 2025 年度実績：年 2 回）

※内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに１回受講します.
⑧内科系学術集会（下記「７．学術活動に関する研修計画」参照）
⑨各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

など

4）自己学習

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類， 技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる)， B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，また は判定できる)， C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに， 症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した)，B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した)，C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています.（「研修カリキュラム項目表」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します.

①内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
②日本内科学会雑誌にある MCQ
③日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム

J-OSLER を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します.

･専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.

･専攻医による逆評価を入力して記録します.

･全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います.

･専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.

･専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス

ツカザキ病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（P.19「ツカザキ病院内科専門研修施設群」参照）.

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設であるツカザキ病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

6.リサーチマインドの養成計画

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります.

ツカザキ病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても，

①患者から学ぶという姿勢を基本とする.

②科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM; evidence based medicine）.

③最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）.

④診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.

⑤症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します.

併せて，

①初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.

②後輩専攻医の指導を行う.

③メディカルスタッフを尊重し，指導を行う.

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います.

7.学術活動に関する研修計画

ツカザキ病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院のいずれにおいても，

①内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）.

※ 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します.

②経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います.

③臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.

④内科学に通じる基礎研究を行います.

を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います.

なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，ツカザキ病院内科専門研修プログラ

ムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

8.コア・コンピテンシーの研修計画

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です.

ツカザキ病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます.

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設であるツカザキ病院臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.

①患者とのコミュニケーション能力
②患者中心の医療の実践
③患者から学ぶ姿勢
④自己省察の姿勢
⑤医の倫理への配慮
⑥医療安全への配慮
⑦公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧地域医療保健活動への参画
⑨他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

9.地域医療における施設群の役割

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．ツカザキ病院内科専門研修施設群は兵庫県中播磨医療圏と関西広域の種々の機能を持つ連携施設の医療機関から構成されています.

ツカザキ病院は，兵庫県中播磨医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.

連携施設は，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせ

て，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，地域基幹病院および地域医療密着型病院で構成しています．地域基幹病院では，ツカザキ病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します．

10.地域医療に関する研修計画

ツカザキ病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています．

ツカザキ病院内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

11.内科専攻医研修

基幹施設であるツカザキ病院内科で，原則専門研修（専攻医）1 年目，3 年目に 2 年間の専門研修を行います．

専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）2 年目の研修施設を調整し決定します．2 年目の 1 年間，連携施設で研修をします（図 1）．

なお，研修達成度によっては 3 年目に Subspecialty の研修も可能となります（個々人により異なる）．

図１．ツカザキ病院内科専門研修プログラム（ローテーション例）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年目	各科ローテーション中(例)も総合内科外来を受け持ち各専門内科以外の患者も広く受け持つ											
卒後3年	総合内科			循環器内科			消化器内科			神経内科		
	1年目(卒後3年)までにJMECCを受講、初診・再診内科外来/週1回											
2年目	連携研修2年目											
卒後4年										内科専門医取得のための病歴提出		
3年目	総合内科　達成度によってはsubspecialty研修も可能(ローテーション例)											
	循環器内科			神経内科			消化器内科			消化器内科		
卒後5年	初診・再診内科外来/週1回											

12.専攻医の評価時期と方法

(1) ツカザキ病院臨床研修センターの役割

・ツカザキ病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います.

・ツカザキ病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します.

・3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し, 専攻医による病歴要約の作成を促します. また, 各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.

・年に複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は J-OSLER を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します.

・臨床研修センターは，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は J-OSLER を通じて集計され，担当指

導医から形成的にフィードバックを行います.

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します.

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医がツカザキ病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます.

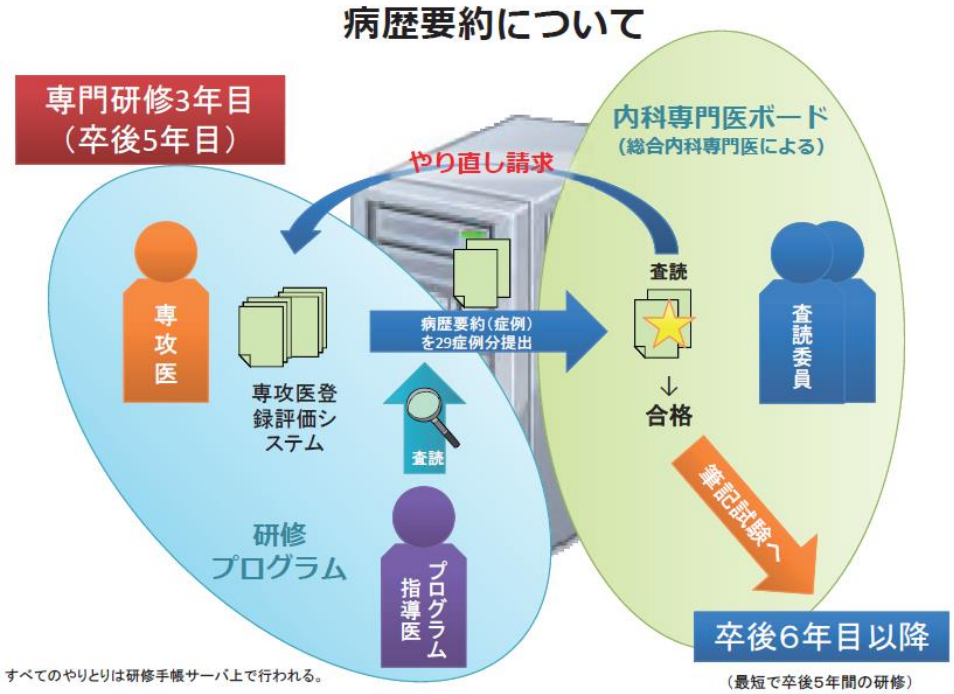
・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.

・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，120 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します.

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し, 専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，J-OSLER に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます.



（3）評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとにツカザキ病院内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します．

（4）修了判定基準

1）担当指導医は，J-OSLER を用いて研修内容を評価し，以下ｉ)～vi)の修了を確認します．

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を J-OSLER に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます)を経験し，登録済み（P.99 別表 1「ツカザキ病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照)．

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii）所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv）JMECC 受講

v）プログラムで定める講習会受講

vi）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2）ツカザキ病院内科専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前にツカザキ病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います．

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」,「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，J-OSLER を用います.

なお,「ツカザキ病院内科専攻医研修マニュアル」（P.89）と「ツカザキ病院内科専門研修指導者マニュアル」（P.96）と別に示します.

13.専門研修管理委員会の運営計画

（P.80「ツカザキ病院内科専門研修管理員会」参照）

1）ツカザキ病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.

内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者，プログラム管理者（指導医），事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.80 ツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）．ツカザキ病院内科専門研修管理委員会の事務局を，ツカザキ病院臨床研修センターにおきます.

ii）ツカザキ病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 6 月と 12 月に開催するツカザキ病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します.

基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，ツカザキ病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います.

①前年度の診療実績

a)病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d) 1 か月あたり内科外来患者数，e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数

②専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績, b)今年度の指導医数/総合内科専門医数, c)今年度の専攻医数, d)次年度の専攻医受け入れ可能人数.

③前年度の学術活動

a)学会発表，b)論文発表

④施設状況

a)施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催.

⑤Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

14.プログラムとしての指導者研修（FD）の計画

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します.

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.

指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います.

15.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

労働基準法や医療法を順守することを原則とします.

専門研修（専攻医）1 年目，3 年目は基幹施設であるツカザキ病院の就業環境に，専門研修（専攻医）2 年目は連携施設の就業環境に基づき，就業します（P.19「ツカザキ病院内科専門研修施設群」参照）.

基幹施設であるツカザキ病院の整備状況：

·研修に必要な図書室とインターネット環境があります.

·ツカザキ病院常勤医師として労務環境が保障されています.

·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります.

·ハラスメント委員会がツカザキ病院法人本部に整備されています.

·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.

·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.20「ツカザキ病院内科専門施設群」を参照.

また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容はツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16.内科専門研修プログラムの改善方法

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は

担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，ツカザキ病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます．

2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会，ツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，ツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します．

①即時改善を要する事項
②年度内に改善を要する事項
③数年をかけて改善を要する事項
④内科領域全体で改善を要する事項
⑤特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします．

・担当指導医，施設の内科研修委員会，ツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，ツカザキ病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断してツカザキ病院内科専門研修プログラムを評価します．
・担当指導医，各施設の内科研修委員会，ツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます．

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

ツカザキ病院臨床研修センターとツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会は，ツカザキ病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じてツカザキ病院内科専門研修プログラムの改良を行います．

ツカザキ病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します．

17.専攻医の募集および採用の方法

1）採用方法

【応募資格】
初期臨床研修修了見込みの者であること。
【採用方法】
基幹施設であるツカザキ病院に設置された内科専門研修プログラム管理委員会が、内科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年 4 月頃より随時見学を受け付け、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、下記の問い合わせ先に①履歴書と②医師免許証の写しを提出します。

【問い合わせ先】
〒671-1227
兵庫県姫路市網干区和久 68 番 1
社会医療法人三栄会ツカザキ病院　医局支援課
TEL：079-272-8555
FAX：079-272-8550
MAIL：dr-recruit@saneikai-hp.jp
HP：https://www.saneikai-hp.jp/doctor/senior/program.html

原則として 10 月までに書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に通知します。応募者および選考結果については 12 月のツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

18.内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に J-OSLER を用いてツカザキ病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，ツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムからツカザキ病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です.

他の領域からツカザキ病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらにツカザキ病院内

科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，J-OSLER への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 7.5 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．

留学期間は，原則として研修期間として認めません．

ツカザキ病院内科専門研修施設群

研修期間：3 年（原則，基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）

図 1.ツカザキ病院内科専門研修ローテーション例

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年目	各科ローテーション中(例)も総合内科外来を受け持ち各専門内科以外の患者も広く受け持つ											
卒後3年	総合内科			循環器内科			消化器内科			神経内科		
	1年目(卒後3年)までにJMECCを受講、初診・再診内科外来/週1回											
2年目	連携研修2年目											
卒後4年										内科専門医取得のための病歴提出		
3年目	総合内科　達成度によってはsubspecialty研修も可能(ローテーション例)											
	循環器内科			神経内科			消化器内科			消化器内科		
卒後5年	初診・再診内科外来/週1回											

表 1.　各研修施設の概要

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	ツカザキ病院	386	90	4	8	6	5
連携施設	姫路医療センター	405	209	7	13	19	2
連携施設	姫路赤十字病院	560	183	10	22	29	7
連携施設	姫路聖マリア病院	425	110	1	11	10	3
連携施設	はりま姫路総合医療センター	736	306	11	46	38	2
連携施設	井野病院	100	70	7	5	2	0
連携施設	中谷病院	60	60	5	2	0	0
連携施設	厚生病院	148	148	1	6	2	0
連携施設	大阪公立大学医学部附属病院	965	234	12	90	75	11
連携施設	姫路中央病院	235	90	2	3	1	2
連携施設	関西医科大学附属病院	797	237	12	51	52	10
特別連携	三栄会広畑病院	150	95	5	0	0	0
連携施設	北野病院	685	305	9	13	23	7
連携施設	浅香山病院	957	92	6	6	6	0
連携施設	石切生喜病院	331	133	7	25	20	4
連携施設	育和会記念病院	265	120	7	9	9	1
連携施設	大阪市立十三市民病院	263	119	5	8	8	0
連携施設	大阪市立総合医療センター	1063	304	11	53	48	10
連携施設	馬場記念病院	300	95	5	10	10	1
連携施設	市立柏原病院	220	90	4	2	1	0
連携施設	東住吉森本病院	329	200	4	8	5	2
連携施設	PL 病院	370	126	7	3	4	2
連携施設	明治橋病院						
連携施設	ベルランド総合病院	477	204	5	16	10	5
連携施設	泉大津急性期メディカルセンター	300		10	18	13	6

連携施設	和泉市立総合医療センター	307	160	11	24	15	7
連携施設	守口生野記念病院	199	90	5	5	0	3
連携施設	多根総合病院	304	105	5	15	10	0
連携施設	耳原総合病院	386	277	8	16	2	8
連携施設	城山病院	299	104	6	5	5	1
連携施設	済生会兵庫病院	268	47	5	9	12	3

表 2.　各研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
ツカザキ病院	○	○	○	×	×	○	△	○	○	×	×	△	○
姫路医療センター	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○
姫路赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
姫路聖マリア病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
はりま姫路総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
井野病院	×	○	○	○	○	○	○	○	△	×	×	○	×
中谷病院	△	○	○	△	△	△	○	×	×	○	×	×	×
厚生病院	×	○	○	△	○	○	○	△	△	×	×	○	×
大阪公立大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
姫路中央病院	○	○	△	×	×	×	△	×	○	×	×	○	○
関西医科大学附属病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	△	○
三栄会広畑病院	○	△	×	×	×	○	△	×	○	×	×	×	×
北野病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
浅香山病院	○	○	○	×	○	△	○	×	×	△	×	△	○
石切生喜病院	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	△	○	○
育和会記念病院	○	○	○	△	△	△	○	×	○	○	×	○	○
大阪市立十三市民病院	○	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	○	○

大阪市立総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
馬場記念病院	×	○	○	×	×	×	○	×	○	×	×	×	○
市立柏原病院	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	△	○
東住吉森本病院	○	○	○	×	△	×	○	×	○	○	×	○	○
PL 病院	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
明治橋病院	△	○	△	△	△	○	△	×	×	×	×	△	△
ベルランド総合病院	○	○	○	×	○	△	○	×	○	△	×	○	○
泉大津急性期メディカルセンター	○	○	○	○	△	×	○	○	○	△	×	○	○
和泉市立総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
守口生野記念病院	○	△	○	×	×	×	×	×	○	×	×	○	○
多根総合病院	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○
耳原総合病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	○	○	○
城山病院	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
済生会兵庫病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	△	○	○

<○：研修できる，△：時に経験できる，×：ほとんど経験できない>

専門研修施設群の構成要件

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．ツカザキ病院内科専門研修施設群は中播磨医療圏の医療機関から構成されています.

ツカザキ病院は，兵庫県中播磨医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて, 急性期医療, 慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に, 姫路市内の基幹病院をはじめとした、関西広域の多様な機能を持つ施設を用意しています。

専門研修施設（連携施設）の選択

·専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，姫路市内科研修委員会で協議のもと，研修施設を調整し決定します.
·専攻医 2 年目の 1 年間，連携施設で研修をします（図 1）.
なお，研修達成度によってはSubspecialty研修も可能です（個々人により異なります）.

専門研修施設群の地理的範囲

兵庫県中播磨医療圏にある施設群を中心に関西広域の施設群から構成しています.

1）専門研修基幹施設

社会医療法人三栄会ツカザキ病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院で NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ･研修に必要な図書室とオンライン購読可能な書籍を多数用意、個別のインターネット環境を整備、また電子カルテ上で参照可能な診療データベースを利用できます。 ･ツカザキ病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に 24 時間体制の院内託児所があり、24 時間 365 日利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	･日本内科学会指導医が 8 名在籍しています（下記)。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（病診・病病連携カンファレンス 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、神経、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 3 演題）を予定しています。

指導責任者	楠山 貴教 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は姫路市西部に位置し、病床数は 386 床で HCU8 床、SCU18 床を有し、播磨姫路医療圏の急性期・救急医療を担っています。地域の 1 次～3 次の救急、および高度専門医療までの幅広い症例を受け入れ、全人的で EBM に基づいた医療を実践し、「患者本位の医療」を行っています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医　8 名 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医・指導医 2 名 日本消化器病学会専門医 5 名・指導医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名・指導医 1 名 日本消化管学会専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 1 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医 1 名 日本糖尿病学会専門医・指導医 1 名 日本腎臓学会腎臓専門医・指導医 1 名 日本肝臓学会専門医 1 名
外来・入院患者数	内科系外来患者 3､596 名（1 か月平均） 内科系入院患者数 3,659 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会/日本専門医機構 内科領域専門研修プログラム認定 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本神経学会認定准教育施設 日本透析医学会教育関連施設

2）専門研修連携施設

姫路医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･姫路医療センター期間職員として待遇され賞与、超過勤務手当、当直手当の支給あり、労務環境が保障されています。 ･専攻医用宿舎があります。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ･ハラスメントに関して安全衛生委員会が担当しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 13 名在籍しています（2025 年 4 月現在)。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：河村哲治）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ･指導医も専攻医も研修状態を電子カルテ端末上でリアルタイムに管理できるよう IT 技術を駆使した本院独自の研修支援システムを構築します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（月曜会、若手医師のための呼吸器勉強会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（姫路市内の病院で共同開催の予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会と事務部が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野において全疾患群について定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。3 分野（内分泌、腎臓、神経）については一部の疾患群で症例数が不足していますが連携

	施設での研修で十分な研修が可能です。 ･専門研修に必要な剖検（年間平約 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･倫理委員会を設置し、定期的に開催（毎月 1 回開催）しています。 ･臨床研究推進室（治験管理、自主研究管理）を設置し、受託研究審査会も毎月 1 回開催しています。
指導責任者	河村哲治 【内科専攻医へのメッセージ】 ･姫路医療センターには、ややもするとありがちな出身大学間や人間関係の軋轢がなく、アットホームな雰囲気で研修に集中でき、従来の後期研修医からも人気を集めており、後期研修終了後は常勤医師に昇進する例が大多数を占めています。 ･本院独自に開発している研修支援システムは、細かな規則も含めたカリキュラム規定をすべて盛り込んで全専攻医が能率的に確実にカリキュラムを消化できるようにテクニカルな側面から強力に支援を行うものであり、リアルタイムに研修進行過程を視覚的に確認することが可能であり、安心して研修に集中することを支援します。 ･研修支援システムの補助により、内科全科同時研修進行を可能としており、希少症例もタイムリーに経験することを可能とし、無理のない学会報告をも可能としています。 ･サブスペシャルティの並行研修を行うことを強く意識していますが、それを希望する場合は研修支援システムの補助のもと研修進行状況を厳重に管理し実現に向けて最大限の支援を行います。 ･とくに呼吸器、消化器については先進的なサブスペシャルティ研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名 日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本消化器内視鏡学会専門医 11 名 日本消化器内視鏡学会指導医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本糖尿病学会指導医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医 6 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 9 名 日本呼吸器内視鏡学会指導医 3 名

	日本血液学会血液専門医 1 名 日本血液学会血液指導医 1 名 日本リウマチ学会専門医 4 名 日本リウマチ学会指導医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本感染症学会指導医 1 名　　ほか
外来・入院患者数	内科系の外来患者 4,647 名（1 ヶ月平均） 内科系の入院患者 5,804 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例について、腎疾患、神経疾患については一部の疾患群で症例数が不足しているが、その他は幅広く経験することができます。不足領域は連携病院での研修で十分研修できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

姫路赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境(Free Wi-Fi)があります。 ・ 姫路赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。

認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 22 名在籍しています。 ・ 施設内に臨床研修センターと内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、併せて設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 10 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2025 年度：4 回、2024 年度：5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、姫路市救急医療合同カンファレンス、姫路循環器談話会、姫路呼吸器研究会、姫路消化器病研究会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 当プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・ 臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・ 研修に必要な内科剖検(2025 年度 7 件、2024 年度 5 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・ 医中誌、PubMed、Clinical Key、Cochrane Library、DynaMed、UpToDate、今日の診療など文献検索、データベース、医療情報に加え、冊子体ジャーナル（和雑誌 108 誌、洋雑誌 81 誌購読）を取り揃えています。 ・ UpToDate anywhere を自宅 PC や mobile 機器で、いつでも、どこでも、何時間でも利用できます。（但し、通信費用は自己負担です） ・Clinical Key：1,100 以上の書籍・教科書、600 以上のジャーナル、17,000 以上の医療動画など豊富な医療情報を入手できます。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績：12 回）しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に自主研究・受託研究審査会を開催（2024 年度実績：15 回）しています。

	・日本内科学会総会や同地方会で積極的に発表しています（2024 年度実績：3 演題）。 ・Subspecialty 学会に積極的に発表しています（2024 年度実績：38 演題）。
指導責任者	プログラム統括責任者　筑木隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 姫路赤十字病院は、兵庫県はりま姫路医療圏の中心的な急性期総合病院であり、消化器、肝臓、循環器、血液、呼吸器、膠原病、腎臓、糖・代謝・内分泌、消化器内視鏡の専門診療を積極的に展開しています。 本プログラムの連携施設として、上記領域の専門診療並びに内科救急疾患診療を研修することにより、質の高い、幅広い診療領域に通じた、地域に根差した医療を実践できる内科専門医を育成することを目指しています。 姫路赤十字病院では、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までを通じて、確かな診断・治療はもとより、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医となれるように、しっかり指導します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　23 名 日本内科学会総合内科専門医　29 名 日本消化器病学会消化器専門医　8 名 日本肝臓学会肝臓専門医　3 名 日本循環器学会循環器専門医　6 名 日本糖尿病学会専門医　2 名 日本腎臓学会腎臓専門医　1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　3 名 日本血液学会血液専門医　4 名 日本リウマチ学会専門医　3 名 日本消化器内視鏡学会専門医　8 名
外来・入院患者数	新入院患者数 6,826 名、外来患者数 87,776 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群、200 疾患の症例を幅広く経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	地域がん診療連携拠点病院（高度型） 日本内科学会認定医制度教育病院

	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本放射線腫瘍学会認定協力施設 日本ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾅﾙﾗｼﾞｵﾛｼﾞｰ学会(IVR)専門医修練認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会認定研修関連施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設　　など

姫路聖マリア病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･臨床研修病院基幹型研修指定病院で、NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･姫路聖マリア病院正職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処するにメンタルヘルスケアシステムがあります。 ･ハラスメント委員会（暴言、暴力の窓口）が院内に設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が 11 名在籍しています（下記)。 ･内科専攻医研修プログラム委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。

	·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 17 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンス（2022 年度実績 2 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（姫路聖マリア病院オープンセミナー 2024 年度実績 12 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医にＪＭＥＣＣ受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・呼吸器・腎臓・代謝・血液・感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·2025 年度行われた剖検数は 3 体です。専門研修に必要な剖検数を得られる予定です。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・今日の診療やメディカルオンラインなどのデータベースに加え、冊子体ジャーナルを 63 タイトル、電子ジャーナル 2 タイトルを取り揃えております。
指導責任者	松村　正 【内科専攻医へのメッセージ】 姫路聖マリア病院は、救急医療から透析、緩和医療まで広く地域に貢献している急性期病院です。主担当医として、入院から退院までの全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名 日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本消化器病学会消化器病専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本アレルギー学会アレルギー専門医 3 名 日本老年病学会老年病専門医 1 名

	日本消化器内視鏡学会専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	内科外来患者数 3,354 名（2024 年度・1 か月平均） 入院患者 1125 名（2024 年度・1 か月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち、稀な疾患を除けば幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	併設された老健施設やホスピスの症例を通して地域医療・病診連携を経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設（内科） 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本透析医学会教育関連施設　　など

兵庫県立はりま姫路総合医療センター

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･兵庫県立病院会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医は 46 名在籍しています（下記） ･内科専門研修連携施設研修管理委員会にて、基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回、2025 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（姫路市内科専門研修 Group カンファレンス、はり姫健康講座、地域連携カンファレンス、高機能シミュレータ医療研修講座、地域の総合医と専門医を繋ぐプロジェクトなど）を定期的に開催・参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能です。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記)。 ·専門研修に必要な剖検（2024 年度 2 体、2025 年度 9 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·臨床研究審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 7 演題、2025 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	大内　佐智子 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立はりま姫路総合医療センターは、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざします。 当院はドクターヘリを擁する救命救急センターを併設しており、救急医療を数多く経験できます. 救急科と内科で密接に連携して救急患者の診療に当たっています。 すべての内科系専門領域をカバーしており、全分野において研修ができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会内科専門医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 38 名、日本内科学会認定内科医 42 名、日本循環器学会循環器専門医 17 名、日本神経学会脳神経内科専門医 6 名・指導医 4 名、日本糖尿病学会専門医 5 名・指導医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名・指導医 4 名、日本消化器病学会専門医 9 名・指導医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名・指導医 6 名、日本肝臓学会専門医 5 名・指導医 1 名、日本腎臓学会専門医 3 名・指導医 2

	名、日本透析医学会専門医 2 名・指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名・指導医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名・指導医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 3 名・指導医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本緩和医療学会専門医 1 名・指導医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	内科系診療科外来患者　12,363 名(2025 年度 1 ヶ月平均)、内科系診療科入院患者 9,140 名（2025 年度 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本病院総合診療医学会認定基幹施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本超音波医学会超音波専門医研修施設、日本核医学学会専門医教育病院、心エコー図専門医制度研修施設、日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設、日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本心臓リハビリテーション認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会卵円孔開存閉鎖術実施施設、日本成人先天性心疾患学会認定成人選定性心疾患専門医連携修練施設、ペースメーカ移植術認定施設、埋込型除細動器移植術認定施設、両心室ペースメーカ移植術認定施設、両心室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術認定施設、経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）認定施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設、MitraClip 実施施設、WATCHMAN/左心耳閉鎖システム実施認定施設、PFO 閉鎖術実施施設、IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、植込み型 VAD 管理施設、日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本脳卒中学会一次脳卒中センター (PSC)コア施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本炎症性腸疾患学会指導施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会認定施設、日本呼吸器学会連携施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設)、日本血液学会専門研修教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本緩和医療学会基幹施設、ほか

医療法人社団汐咲会　井野病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院ではありません. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・井野病院の病院正職員として労務環境が保証されます. ・メンタルストレスに適切に対処する部署が総務課にあります. ・ハラスメント委員会が院内に設置されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が　整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が４名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し(2021 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス(地域の他病院と連携した訪問診療カンファレンス)を　定期的に開催し、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器、循環器、神経、代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	森本　真輔 【内科専攻医へのメッセージ】 高齢化社会到来により地域密着型の内科主体の病院として、急性期から慢性期にかけての医療･介護を担っております. 急性期医療は適宜基幹病院と連携しています. 近隣の開業医、老人保健施設とも連携をもち、入所者の急変にも対応しています. 在宅医療（訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション）にも力を入れています. 血液透析も行っております.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医５名　日本消化器病学会専門医 2 名　日本消化器内視鏡学会指導医 1 名　日本胆道学会指導医 1 名　日本糖尿病学会専門医 1 名　日本呼吸器学会専門医 1 名　日本アレルギー学会専門医 1 名､日本リウマチ学会専門医 1 名、日本血液学会専門医１名が在籍しています.
外来・入院 患者数	内科外来患者数 212.1 名/日(2021 年度平均)　 平均入院患者数 69.1 名(2021 年度

	平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち、稀な疾患を除けば幅広く経験することが出来ます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	併設された老人保健施設、訪問看護ステーションなどあり、通所リハビリテーションや訪問診療を通して地域医療・介護・病診連携を経験することができます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会関連施設、日本胆道学会指導施設

医療法人社団健裕会　中谷病院

認定基準 1）専攻医の環境	・臨床研修指定病院ではありません。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・中谷病院の正職員として労務環境が保証されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署を総務課に設置しています。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、当直室が整備されています。
認定基準 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が 2 名在籍しています。 ・内科専攻医研修員会を設け、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に徐行を義務を付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域の他病院との連携した訪問診療カンファレンス）を定期的に開催し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、アレルギー科の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診察しています。
認定基準 4)学術活動の環境	
指導責任者	・中谷裕司 【内科専攻医へのメッセージ】 高齢化社会の到来により、地域密着型の内科主体の病院として、特に慢性期

	医療・介護に重点を置き、急性期医療は基幹病院との連携をとることが地域住民にとっても最も必要と考え、多機能型病院を目指しています。また、人工透析、リハビリテーションの充実を図り、在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション）にも力を入れています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 日本アレルギー学会 専門医 日本循環器病学会 専門医 プライマリ・ケア連合学会 認定指導医
外来・入院 患者数	・1 日平均内科外来患者数（2025 年 4 月～2026 年 3 月　　144.6 名） ・1 日平均入院患者数（2025 年 4 月～2026 年 3 月　　54.2 名）
経験できる疾患群	・研修手帳（疾患郡項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、まれな疾患を除けば幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・技術、技能評価手帳にある内科専攻医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	併設された通所リハビリテーションや訪問診療を通して、地域医療・介護・病院連携を経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本アレルギー学会準認定教育施設

綱島会厚生病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院ではありません. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・厚生病院の病院正職員として労務環境が保証されます. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が 整備されています.女性医師が常勤で 3 名、非常勤で 3 名勤務しています.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 6 名在籍しています. ・医療安全・感染対策委員会・衛生委員会を定期的に開催し(2021 年度講演会実績、医療安全 3 回、感染対策 2 回.医薬品安全管理 2 回)職員の認識の向上に努めています.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器、代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。

4)学術活動の環境	
指導責任者	松下　健次 【内科専攻医へのメッセージ】 　高齢化社会到来により地域密着型の内科主体の病院として、急性期から慢性期にかけての医療・介護を担っております.急性期医療は適宜基幹病院と連携しています.近隣の開業医、老人保健施設とも連携をもち、入所者の急変にも対応しています.在宅医療（訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション）にも力を入れています.血液透析も行っております.当院が協力病院となっているのは、施設 14 施設、医院 14 医院あります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合指導医 2 名. 日本内科学会認定内科医 3 名､日本消化器病学会専門医指導医 3 名、　日本消化器病学会専門医 5 名、　日本消化器内視鏡学会指導医 2 名専門医 3 名、　日本肝臓学会専門医指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 3 名研修指導医　2 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本循環器学会認定循環器専門医 1 名　が在籍しています.
外来･入院 患者数	内科外来患者数 52841 名/年(2021 年度)　入院患者数 1780 名/年(2021 年度)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち、稀な疾患を除けば幅広く経験することが出来ます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	併設された介護保険療養棟、老人保健施設、訪問看護ステーション、デイケアー、デイサービスなどあり、訪問リハビリテーションや訪問診療を通して地域医療・介護・病診連携を経験することができます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会関連施設、日本糖尿病学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器がん検診学会認定指導施設、日本プライマリケア学会研修指定病院

大阪公立大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院（基幹型研修指定病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪公立大学医学部附属病院前期研究医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生担当）があります。

	・ハラスメント委員会が大阪公立大学に整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 90 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 11 回、感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度剖検実績　11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績　12 演題）をしています。
指導責任者	繪本　正憲（大阪公立大学内科連絡会教授部会会長） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪公立大学は大阪府内を中心とした近畿圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 90 名，日本内科学会総合内科専門医 79 名， 日本消化器病学会消化器専門医 28 名，日本循環器学会循環器専門医 14 名， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 6 名，日本腎臓病学会専門医 7 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名，日本血液学会血液専門医 14 名， 日本神経学会神経内科専門医 6 名，日本消化器内視鏡学会専門医 22 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）4 名，日本リウマチ学会専門医 5 名， 日本感染症学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 9 名，

	日本老年学会老年病専門医 1 名，日本肝臓学会肝臓専門医 8 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 148,884 名（2025 年度　延べ数） 入院患者　80,445 名（2025 年度　延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本腎臓学会研修施設、 日本アレルギー学会認定教育施設、 日本消化器内視鏡学会認定指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本老年医学会認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、 日本透析医学会認定医制度認定施設、 日本血液学会認定研修施設、 日本神経学会認定教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本東洋医学会研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本肥満学会認定肥満症専門病院、 日本感染症学会認定研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、 ステントグラフト実施施設、 日本認知症学会教育施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本リウマチ学会認定教育施設など

医療法人公仁会姫路中央病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院ではありません。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・姫路中央病院正職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント防止規定が制定されており、相談窓口（事務部人事課）が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるようにシャワー室、当直室、更衣室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、24時間365日利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が3名在籍しています（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連　携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染予防対策講習会を定期的に開催（2024年度実績　医療倫理 0回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（姫路中央病院オープンカンファレンス、多職種による事例検討会、多職種連携学術講演会、姫路神経カンファレンス　　2024年度実績 8回）を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（兵庫臨床神経病理カンファレンス　2024年度実績 1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・臨床神経内科医会を定期的に当院で開催し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・院内にて日本救急医学会認定 ICLS コースを開催し、そのための時間敵余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、神経の分野で専門的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・2023年度に行われた剖検数は3体です。専門研修に必要な剖検数を得られる予定です。
認定基準 【整備基準24】	・日本神経学会講演会あるいは同地方会に年間で計4演題以上の学会発表（2024年度実績 5題）をしています。

4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。
指導責任者	田畑　昌子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は 235 床のケアミックス型病院で附属クリニックを併設しています。また兵庫県指定の認知症疾患医療センターとしての役割も担っています。扱う疾患の範囲も非常に広く、認知症、脳血管障害、脱髄疾患、末梢神経障害、神経筋接合部疾患、神経感染症、神経変性疾患、てんかん、頭痛など多岐にわたり、当院では急性期から慢性期まで幅広く対応しています。また、機能的定位脳手術技術認定施設でもあり、DBS や iTB など脳神経外科と連携し学ぶことができます。神経領域はその複雑さから専門性が高く敬遠されている分野だと思いますが、「意識障害」、「痙攣」、「頭痛」、「めまい」、「しびれ」、「手足が動かない」といった内科や救急でよく遭遇する common な症状に詳しくなることができます。この意味で神経を専門にしていると総合内科や救急といった general な分野との橋渡しを担うこともできます。当院ではともに学びサポートするプログラムを用意しています。神経内科に興味をもってもらえる先生が増えて仲間が増えてくれると嬉しいです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3 名 日本内科学会総合内科専門医　1 名 日本神経学会専門医　4 名・指導医　3 名 日本認知症予防学会専門医　1 名 日本頭痛学会専門医・指導医　1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医　1 名 日本リハビリテーション医学会専門医　2 名・指導医　1 名 日本消化器病学会消化器専門医・指導医　1 名 日本消化器内視鏡学会専門医　3 名 日本消化管学会専門医・指導医　1 名 日本がん治療認定医機構認定医　1 名
外来･入院 患者数	神経内科外来患者数　2752 名（2024 年度 1 ヶ月平均） 新規入院患者　56 名（2024 年度 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、神経疾患は全ての疾患群で数々の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域	地域医療機関や介護施設との連携等を通して地域医療・病診連携を経験

医療・診療連携	することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科研修プログラム連携施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化管学会胃腸科指導施設

関西医科大学附属病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（職員メンタルヘルス相談）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	･常勤の指導医は51名在籍しています。 ･連携施設として研修委員会を設置し、基幹施設のプログラム管理委員会・研修委員会と連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会を設置し、卒後臨床研修センターと協働してプログラムに沿った研修ができるように調整します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2022年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･救急蘇生講習会（JMECC）を定期的に開催し、専攻医に受講してもらっています（2022年度実績2回)。 ･日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70疾患群のうち62疾患群程度について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2020年度12体、2021年度6体、2022年度10体）を行っています。
認定基準 【整備基準24】	･臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022年度実績12回）しています。

4)学術活動の環境	･治験管理室を設置し、定期的に研究審査会を開催しています
指導責任者	塩島　一朗（内科学第二講座教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 　関西医科大学附属病院は北河内二次医療圏において中心的な役割を持つ急性期病院です。幅広い症例を経験することにより、内科全般の知識を深めることができます。また、連携施設では急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応し地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。特定の subspecialty を中心とする研修をおこなうことも可能です。
指導医数 （常勤医）	内科学会認定内科医 81 名、内科学会総合内科専門医 52 名 日本消化器病学会消化器専門医 29 名、日本肝臓病学会専門医 13 名 日本循環器学会循環器専門医 13 名、日本腎臓学会腎臓専門医 8 名 日本内分泌学会内分泌専門医 7 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 9 名 日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本リウマチ学会専門医 7 名 日本感染症学会専門医 3 名、ほか
外来･入院 患者数	内科外来患者 194,577 名/年　内科入院患者 6,374 名/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、12 領域、60 疾患群程度の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定研修施設 日本アレルギー学会専門医研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

	日本臨床腫瘍学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本感染症学会研修施設 日本気管食道学会専門医研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本内分泌学会認定教育病院 日本甲状腺学会認定施設 日本心療内科学会認定専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設

社会医療法人三栄会広畑病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院ではありません。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・併設の託児所があります。 ・三栄会広畑病院常勤医師として労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医はおりません。 ･ツカザキ病院のプログラム責任者と指導医によって専攻医の研修を管理し、ツカザキ病院のプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・感染対策員会・衛生委員会を毎月定期的に開催し、医療安全・感染対策は専従の看護師を中心に年に2回、職員の認識向上のため職員研修を行っています。専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ･専攻医にはツカザキ病院の CPC への受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、血液、神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準	日本内科学会講演会あるいは同地方会での 2025 年度発表実績はありませ

【整備基準 24】 4)学術活動の環境	ん。
指導責任者	坪庭　直樹 【内科専攻医へのメッセージ】 地域密着型の内科主体の病院として、ポストアキュート、サブアキュート機能、回復期リハビリ、そして退院後の在宅療養支援を担っております。神経難病、腎臓、透析治療について深く学ぶ環境があります。
指導医数 （常勤医）	日本消化器内視鏡学会専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医・指導医 2 名 日本腎臓学会専門医・指導医 1 名 日本透析医学会専門医・指導医 2 名 日本専門医機構認定内科専門医 2 名
外来･入院 患者数	外来患者数：平均 7,518 名/月、入院延べ患者数：平均 3,869 名/月
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域密着型病院として、超高齢社会に対応した医療、病診・病病連携なども経験できます。
	日本腎臓学会認定教育施設 日本神経学会認定准教育施設 日本透析医学会教育施設

公益財団法人田附興風会医学研究所　北野病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベース・サービス（UpToDate、Cochrane Library、Clinical key、 Medical online、科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)、CiNii（NII 学術情報ナビゲータ）他、多数）が院内のどの端末からも利用できます。 ・公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院の常勤医師としての労務環境が保証されています。 ・院内の職員食堂では日替わり定食・麺類・カレーライス等を提供して

	おり、当直明けには院内のコーヒーショップのモーニングセットを全員に用意します。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・院内保育所が完備され、小児科病棟では病児保育も利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医は 33 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（主任部長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医師卒後教育センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全講習会・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記)。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 4 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	北野　俊行 【内科専攻医へのメッセージ】 北野病院は連携施設と協同して内科専門研修を行い、必要に応じた

	可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで 経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整 をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指 します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名、日本消化器病学会消化器病専門医 5 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本透析医学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名等
外来･入院 患者数	外来：1,674.2 名（全科 1 日平均：2024 年度実績） 入院：204,572 名（全科 2024 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に 基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医制度研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設

	日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

公益財団法人 浅香山病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度の基幹型臨床研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･浅香山病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会を整備しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等を整備しています。 ･敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が6名在籍しています（下記)。 ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，呼吸器，代謝，腎臓の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 2 演題以上の学会発表を予定しています。 ･倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ･専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	大村　崇 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、政令指定都市堺市の中心部に位置する急性期医療から回復期医療、緩和ケア医療、精神科合併症医療にいたる幅広い医療に対応可能な総合病院です。年間 3,000 件近い内科救急での救急医療に加え、各指導医のもと循環器、消化器、呼吸器領域の高度な専門的医療の研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名 日本内科学会 総合内科専門医：6 名 日本内科学会 内科専門医：2 名 日本内科学会 認定内科医：1 名 日本内科学会 認定医：12 名 日本消化器病学会 専門医：5 名　指導医：4 名 日本消化器内視鏡学会 専門医：4 名　指導医：3 名 日本消化管学会 専門医：3 名　指導医：2 名 日本循環器学会 専門医：4 名 日本高血圧学会 専門医：1 名　指導医：1 名 日本心血管インターベンション治療学会 認定医：3 名 日本呼吸器学会 専門医：3 名　指導医：1 名 日本呼吸器内視鏡学会 専門医：1 名　指導医：1 名 日本アレルギー学会 専門医：1 名 日本腎臓学会 専門医：1 名 日本プライマリ・ケア連合学会 指導医：2 名 日本肝臓学会 専門医：1 名
外来･入院 患者数	外来患者 2,024 名（1 ヶ月平均延数）　入院患者 1,689 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけではなく、超高齢化社会に対応した地域医療・診療連携を経験できます。精神科医療についても精神科身体合併症医療のなかで豊

	富な臨床経験を得ることが可能です。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本感染症学会認定研修施設

石切生喜病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・医師臨床研修制度に基づく臨床研修指定病院（基幹型臨床研修病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・医療法人藤井会石切生喜病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院近隣にある医療法人藤井会附属保育園が利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が25名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（大阪東臨床医学会、地域連携カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、感染症、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しており、70 疾患群のうち大部分の疾患群（少なくとも 56 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会・同地方会および内科系学会にて多数の学会発表を行っています。 ・専攻医が国内外の学会に参加・発表し、また症例や臨床成績を和文・英文論文の筆頭著者として執筆する機会があります。
指導責任者	堀尾　武史 【内科専攻医へのメッセージ】 石切生喜病院は東大阪市東部にあり、この地域の急性期医療の中心的な役割を担う急性期総合病院です。また、現在大阪府がん診療拠点病院にも指定されています。基幹施設の内科専門研修プログラムに則り、連携施設として専門研修を行い、全人的医療ができ地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 25 名 日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器病専門医 9 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名 日本腎臓学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本アレルギー学会専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名　ほか
外来･入院 患者数	年間入院患者実数（内科系）: 3.517 名 年間外来延べ患者数（内科系）: 122,214 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験できます。循環器、呼吸器、消化器、腎臓領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応し地域に根ざした医療、病診・病病連携等を経験できます。
学会認定施設（内科系）	専門研修プログラム（内科領域）基幹病院 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会指導連携施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術実施施設 日本超音波医学会超音波専門医研修基幹施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）

育和会記念病院

認定基準【整備基準24】1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院でNPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ・研修に必要な図書室とオンライン購読可能な書籍を多数用意、個別のインターネット環境を整備、また電子カルテ上で参照可能な診療データベースを利用できます。 ・常勤医師（専攻医）として労働環境が保証されています。
認定基準【整備基準24】2) 専門研修プ	医療倫理、医療安全、感染対策の講習会を定期的に開催。 （2025年度実績：医療倫理1回、医療安全2回、安全対策2回、ACP1回） CPCを開催（2025年度実績4回）

ログラムの環境	
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 4 演題）を予定しています。
指導責任者	坂本　常守
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導 9 名, 日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本感染症学会感染症専門医 1 名 日本消化器病学会消化器病専門医 5 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、指導医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本呼吸器学会専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名
外来･入院 患者数	内科系外来患者数 2,468 名（1 カ月平均） 内科系入院患者数 236 名（1 カ月平均）
経験できる疾患群	稀な疾患を除いて総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、救急科の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本専門医機構呼吸器内科領域専門研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設

地方独立行政法人　大阪市民病院機構　大阪市立十三市民病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･大阪市有期雇用職員医師として労務環境が保障されています。 ･大阪市民病院機構としてメンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･大阪市民病院機構としてハラスメント委員会が設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ･大阪市民病院機構として院外保育施設を整備しています。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が8名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2022年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ･地域参加型のカンファレンス（クリニカルカンファレンス、十三臨床談話会；2022年度実績13回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・現在、当院は新型コロナウイルス重点医療機関に指定され、中等症の新型コロナウイルス感染症の入院診療に対応しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています（2022年度実績：なし)。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022年度実績：0演題）をしています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022年度実績：3回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022年度実績：3回）しています。
指導責任者	日浦　義和 【内科専攻医へのメッセージ】 十三市民病院は大阪市北西部の地域に根差した急性期病院であり、社会医療法人 三共会 ツカザキ病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数	日本内科学会指導医8名

（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会専門医 6 名 日本肝臓病学会専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本呼吸器学会専門医 3 名　ほか
外来･入院 患者数	内科系外来患者 2,313 名（1 か月平均） 内科系入院患者数 74 名（1 か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に感染症病棟を有し結核患者および呼吸器領域、消化器内科においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設

社会医療法人ペガサス馬場記念病院

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･図書室と Medline 等の文献データベースの利用が 24 時間利用可能です。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に 24 時間体制の院内託児所があり、24 時間 365 日利用可能です。 ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院で NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。

認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･日本内科学会指導医が 10 名在籍しています。(下記) ･BMH(Baba Memorial Hospital)カンファレンス：(毎月 1 回) ･CPC：BMH カンファレンスの一環として随時開催 ･セミナー、抄読会、カンファレンス：臨床各科ごとに毎週 1 回程度 ･X 線写真読影セミナー：毎週、木曜日 ･院内症例検討会：上記の BMH カンファレンスの一環として、年 4～6 回、開催 ･医師院内研修会：年 4 回 ･馬場記念病院勉強会：年 3 回 ･日本医療教育プログラム推進機構（JAMEP）による基本的臨床能力評価試験：年 2 の実施
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、神経内科および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	学会は、研究会等への外部の研修活動あり。その参加費用の支給あり。
指導責任者	原 順一副院長
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名 日本循環器学会専門医 3 名 日本不整脈学会　不整脈専門医 2 名 日本呼吸器学会　呼吸器専門医 2 名 日本呼吸器内視鏡学会　気管支鏡専門医 2 名 日本消化器病学会 指導医 4 名 日本消化器病学会 専門医 5 名 日本消化器内視鏡学会 指導医 4 名 日本消化器内視鏡学会 専門医 5 名 日本大腸肛門病学会 指導医 1 名 日本糖尿病学会 専門医・指導医 1 名 日本神経学会　指導医・神経内科専門医 1 名 日本神経学会　専門医・指導医 1 名 日本脳卒中学会　専門医・指導医 1 名
外来･入院 患者数	内科系外来患者 4127.6 名（1 か月平均） 内科系入院患者数 189.5 名（1 か月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある、29 の症候・26 の疾病・病態が幅広く経験できます。
経験できる技術・技能	実際の症例に基づきながら、内科専門医に幅広く経験でき技術・技能の評価を受けることができる。
経験できる地域医療・診療連携	救急医療から始まり継続ケアを行うことができ、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本循環器学会認定 循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定 不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定 研修関連施設 日本消化器病学会専門医制度審査委員会 認定施設 日本消化器内視鏡学会認定 専門医指導施設 日本神経学会認定 研修施設

市立柏原病院

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とオンライン購読可能な書籍を多数用意、個別のインターネット環境を整備、また電子カルテ上で参照可能な診療データベースを利用できます。 ・市立柏原病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医が 2 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(医療安全:2 回、感染対策:2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。医療倫理については基幹施設で行われる講演会への専攻医の参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。開催機会が無い場合には、基幹施設で開催される CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、

	そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	田守　昭博 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は大阪府東部に位置し、病床数は 220 床で HCU4 床、緩和ケア病棟 23 床を有し、中河内医療圏の急性期・救急医療・回復期医療を担っています。地域の 1 次～2 次の救急医療および専門医療等の幅広い症例を経験できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　2 名 日本消化器病学会消化器専門医　6 名 日本消化器病学会指導医　2 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医　7 名 日本消化器内視鏡学会指導医　2 名 日本内科学会総合内科専門医　1 名 日本肝臓学会肝臓専門医　2 名 日本循環器学会循環器専門医　1 名 日本超音波医学会超音波専門医　2 名 日本消化管学会指導医　1 名
外来･入院 患者数	内科系外来患者 2,816 名（1 か月平均）　内科系入院患者数 2,109 名（1 か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本消化管学会胃腸科指導施設

（内科系）	日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修基幹施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設群連携施設

医療法人橘会　東住吉森本病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です．卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･東住吉森本病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ･ハラスメント委員会が東住吉森本病院に整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医は 12 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会との連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（基幹施設 2024 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（基幹施設 : 大阪市南部地区医療連携講演会、東住吉ハートカンファレンス、心腎連携講演会、内視鏡セミナー、緩和ケア研修など；2024 年度実績 6 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、救急で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.

境	·70 疾患群のうち大部分の疾患群（少なくとも 50 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 2 例）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 1 演題以上の学会発表をしています. ·専攻医が国内外の学会に参加・発表し、症例や臨床研究を和文・英文で論文筆頭者として執筆する機会があります.
指導責任者	仲川浩一郎
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 8 名 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本呼吸器学会専門医 2 名 日本心血管インターベンション学会専門医 1 名 日本超音波医学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 3 名，ほか
外来･入院 患者数	外来患者 2,731 名（1 ヶ月平均） 入院患者 287 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本心血管インターベンション学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 など

社会医療法人垣谷会 明治橋病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	一般病床担当患者数 5～10名前後 主治医としての担当になりますが、指導医（他の専門領域の医師等）との相談は随時可能 当直は希望があれば担当していただきます 当直は当院常勤医との3人態勢 週1回内科症例カンファレンスあり 胃カメラ、大腸ファイバー手技指導あり
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	日本内科学会指導医が2名在籍 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催、参加していただきます プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講していただきます
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	内科領域13分野のうち、特に消化器、腎臓については定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	病院規定に定めるところの範囲内で（おおよそ２学会）参加費の支給あり
指導責任者	石村 栄治
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3名 日本内科学会総合内科専門医3名 日本消化器病学会専門医1名 日本消化器内視鏡学会専門医1名 日本消化管学会胃腸科専門医1名 日本糖尿病学会専門医2名 日本腎臓病学会専門医2名
外来･入院 患者数	年間 内科系入院患者数 約650名、外来のべ患者数 約21000名
経験できる疾患群	消化器、腎臓については定常的に専門研修が可能な症例数を確保できます
経験できる技術・技能	実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	一般病棟、療養型病棟に加えて健診事業、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、通所リハビリテーションセンター、訪問看護ステーション

	などを併設し、保健・医療・福祉の三位一体の地域医療を展開しており、急性期医療だけでなく、地域に根ざした連携も経験できます
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会指導関連施設 日本消化管学会暫定指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ 日本腎臓学会教育施設 日本透析医学会教育施設 日本内分泌学会連携医療施設「基幹施設：大阪市立大学医学部附属病院」 日本内科学会教育関連病院 日本透析医学会学会認定施設

ベルランド総合病院

認定基準【整備基準24】1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度による基幹型研修指定病院。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境の整備。 ・メンタルストレスに適切に対処するチームがあります。 ・ハラスメント委員会（労働安全衛生委員会）が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地に隣接した提携保育所があり利用可能です。
認定基準【整備基準24】2）専門研修プログラムの環境	・指導医は14名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長）、プログラム管理者（院長補佐/診療部長）（ともに指導医））を設置して、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2024年度：安全16回、感染13回) ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2022年度実績0回、2023年度実績4回、2024年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に管理部事務局が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記)。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 1 体、2023 年度 7 体、2024 年度 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究担当者を配置し、定期的に臨床研究審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	安 辰一【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、大阪府堺市医療圏の中心的な急性期病院であります。当院の内科専門研修は当院を中心に大学病院（大阪公立大学医学部附属病院、奈良県立医科大学部附属病院、東北医科薬科大学病院、岩手医科大学附属病院、岐阜大学医学部附属病院、近畿大学奈良病院、和歌山県立医科大学附属病院）ならびに同系法人である泉大津急性期メディカルセンターと地域基幹病院である、社会医療法人三栄会 ツカザキ病院、医療法人社団倫生会 みどり病院、医療法人藤井会 香芝生喜病院、社会医療法人友愛会 友愛医療センターの連携で行います。専攻医には主担当医として入院から退院、場合によっては退院後のフォローを含め。診断治療を行います。当院の特徴として、市中病院である最大の利点である①豊富な症例、そして②各科間の垣根の低さがあります。各科には十分な指導医・専門医がいることより、内科全般の研修はもとよりその後 Sub Specialty 研修をも見据えた研修が行えます。
指導医数 （常勤医）	・日本内科学会 指導医 4 名、 ・日本内科学会総合内科 専門医 10 名、 ・日本消化器病学会消化器 専門医 12 名、 ・日本消化器内視鏡学会 指導医・専門医 1 名 ・日本循環器学会循環器 専門医 12 名、 ・日本糖尿病学会 専門医 4 名、 ・日本呼吸器学会呼吸器 専門医 3 名、

	・日本呼吸器内視鏡学会 指導医・専門医 3 名 ・日本神経学会神経内科 専門医 4 名、 ・日本救急医学会救急科 指導医・専門医 5 名 ・日本胆道学会 指導医 1 名 ・日本肝臓学会 指導医・専門医 4 名 ・日本膵臓学会 指導医 1 名 ・日本心血管インターベンション治療学会 指導医・専門医 1 名 ・日本臨床腫瘍学会 指導医 1 名 ・がん薬物療法 専門医 1 名 ・日本不整脈心電学会 専門医 2 名 ・日本超音波医学会 指導医・専門医 1 名 ・日本緩和医療学会 指導医・専門医 1 名
外来･入院 患者数	外来患者 7,456 名（1 ヶ月平均） 入院患者 484 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	・日本内科学会/日本専門医機構 内科領域専門研修プログラム認定 ・日本循環器学会認定専門医研修施設 ・日本循環器学会 左心耳閉鎖システム実施施設 ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会 潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設 ・日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・日本不整脈心電学会 経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術(クライオバルーン)実施施設 ・日本不整脈心電学会 経皮的カテーテル心筋焼灼術(レーザーバルーン(HeartLight))実施施設 ・日本不整脈心電学会 パルスフィールドアブレーション実施施設 ・日本不整脈心電学会 パワードシースによる経静脈的リード抜去術実施施設 ・経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設

	・補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ・日本神経学会教育施設 ・日本認知症学会教育施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・日本救急医学会救急科専門医指定施設 ・日本病理学会研修認定施設 ・日本ステントグラフト実施施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設

泉大津急性期メディカルセンター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型臨床研修病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·常勤医師（専攻医）として労務環境が保障されています. ·労働安全衛生委員会（メンタル、ストレス、ハラスメント含む）が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように、病児保育，休憩室，更衣室，当直室が整備されています. ·女性医師は病院近傍の院内保育所が利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 18 名在籍しています（下記）. ·内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

	·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち， 総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，血液，膠原病，アレルギー，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 10 演題）を予定しています。
指導責任者	田口　晴之 （泉大津急性期メディカルセンター院長代理　心臓血管センター長 内科専門研修統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は大阪府の泉州北部にあり，急性期一般病棟 300 床（ICU8 床，HCU12 床、SCU6 床）を有し，地域の医療・保健・福祉を担っています。 ※市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導 18 名， 日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器病専門医 4 名， 日本循環器学会循環器専門医 7 名， 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名， 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名， 日本血液学会血液専門医 4 名，ほか
外来･入院 患者数	外来患者 10.929 名（1 ヶ月平均）　入院患者 281.5 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設

	日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設 非血縁者間骨髄移植・採取認定病院 非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取認定病院　　など

和泉市立総合医療センター

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･和泉市立総合医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医は24名在籍しています（下記)。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長)、プログラム管理者（副院長）(いずれも指導医）と内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修室を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	･CPC を定期的に開催（2023 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ･特別連携施設（宮古島徳洲会病院、新庄徳洲会病院、帯広徳洲会病院、宇和島徳洲会病院、山北徳洲会病院、庄内余目病院、神戸徳洲会病院、名瀬徳洲会病院、榛原総合病院、羽生総合病院）の専門研修では、電話や現地病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 12 回）しています。 ･臨床研究センターを設置し、定期的に治験連絡会議を開催（2023 年度実績 12 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	坂口　浩樹 【内科専攻医へのメッセージ】 和泉市立総合医療センターは、平成 30 年に新築移転を行い、内科系の診療科も充実致しました。地域の基幹病院として、地域の皆様の期待に沿えるよう、その責務を果たす為、全力で取り組んでおります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、 日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名　ほか
外来･入院 患者数	【2023 年度実績】外来　266,452 名（年間総数） 入院　291 名（1 日平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本消化器病学会認定医制度認定施設 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設 ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本高血圧学会専門医認定施設 ・大阪府がん診療拠点病院 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・肝疾患診療連携病院 ・大阪府難病診療連携拠点病院　　など

社会医療法人弘道会　守口生野記念病院

認定基準【整備基準 24】1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院で NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ・研修に必要な図書室、個別のインターネット環境が整備されています。 ・電子カルテ上で参照可能な診療データベースを利用できます。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・法人内病院の心療内科においてメンタルヘルスに係る相談体制が確立されています。 ・休憩室、更衣室、当直室が整備されています。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	1。内科系専門医は 4 名在籍し、指導可能です。専門医ではありませんが、初期研修基幹病院として J-CEP 認定を得ており、これに準じた臨床研修指導医は 20 名（外科系含む）おります。内科指導医は 2 名です。 2。もともと、大学の内科専攻医ローテーションに連携しているため、専攻医研修についても管理体制を整えています。 3。法人及び院内の研修にて、医療及び職業倫理・医療安全・院内感染

	対策の講習会を開催しています。また、院内感染対策については、当法人病院間連携会議を 3 カ月に 1 度開催しています。 4。初期研修基幹病院でもあり、CPC を開催しております。(年 2〜3 回) 5。地域医療連携の一環として診療所との合同カンファレンスを行っており、参加は可能です。 6。内科系希望研修医と同様に JMECC 受講を推奨しているので、当院在籍期間中に受講可能です。(当院は開催できないため、他施設での開催に参加してもらうことになります)
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	内科領域 13 分野のうち、研修施設認定を得ているのは循環器のみですが、神経内科領域などは専門医が常勤でおり変性疾患などの経験は問題なく出来ること、また、脳卒中については、脳神経外科中心に血栓回収なども行っているため、こちらと連携し、充分な症例を経験することは可能です。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	大学との連携での管理者は西川節病院長（脳神経外科）です。 ただし、専攻医研修会議等に出席する責任者相当は西村哲（循環器内科部長）或いは片山由理（内科・神経内科部長）となります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本循環器学会専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名指導医 1 名 日本内科学会認定内科医 4 名
外来･入院 患者数	内科系外来患者 3,300 名（1 か月平均） 内科系入院患者数 210 名（1 か月平均）
経験できる疾患群	common disease に関しては充分な症例数を経験できる。
経験できる技術・技能	各専門医の指導下での各領域での経験は可能である。(例として心臓超音波検査や冠動脈診断造営など)
経験できる地域医療・診療連携	病診連携の診療所だけでなく、複数の施設との連携もあるため、退院後計画の立案や往診なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度における准教育施設

大阪市立総合医療センター

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院（基幹型臨床研修病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪市民病院機構職員（有期雇用職員）として労務環境が保障されています。 ・大阪市民病院機構としてメンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、医局・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は53名在籍しています。 ・ともに総合内科専門医かつ指導医である、内科プログラム管理委員会（統括責任者：副院長）、プログラム管理者（診療部長）が各研修施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と事務局を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会（2024年度実績8回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC(2024年度実績5回)を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスである都島メディカルカンファレンス（年2回）、キャンサーボード（年4回）、学術講演会（年1回）、DMnet one研究会（年5回） 等を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC(2021年度開催実績2回：受講者9名、2022年度開催実績2回：受講者12名、2023年度開催実績1回：受講者7名、2024年度開催実績1回：受講者9名、2025年度開催実績1回：受講者10名） の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科専門研修管理委員会と事務局は日本専門医機構による施設実地調査に対応します。 ・特別連携施設（大阪市立弘済院附属病院）の専門研修では、電話・大阪市立総合医療センターでの面談（週1回）・カンファレンス等により指導医がその施設での研修指導を行います。

認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうち、ほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 9 体、2023 年度実績 14 体、2024 年度実績 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室等を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で多数の学会発表(2023 年度実績 106 演題）をしています。
指導責任者	小西　啓夫 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪市立総合医療センターは、大阪市の中心的な急性期病院であり大阪市医療圏・豊能医療圏にある連携施設・特別連携施設と連携し内科専門研修を行い、　必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景や療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 53 名（2024 年度） 日本内科学会総合内科専門医 48 名、日本消化器病学会専門医 12 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 8 名、 日本内分泌学会専門医（内科）9 名、日本腎臓病学会専門医 7 名、 日本糖尿病学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本血液学会専門医 5 名、日本神経学会専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本感染症学会専門医 5 名ほか
外来･入院 患者数	内科系外来患者合計　175,496 名（年間） 内科系入院合計　8,464 名（年間）内科系のみ（2024 年度）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・

医療・診療連携	病病連携等も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設等 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本てんかん学会てんかん専門医制度認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設栄養サポートチーム専門療法士修練施設 日本感染症学会認定研修施設 等

医療法人宝生会 PL 病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室と UpToDate の利用環境（病院負担）を整備しています。 ･PL 病院常勤医師として労務環境が保障されています。

境	･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります。 ･ハラスメント対応窓口が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地に隣接した 24 時間体制の院内保育所があり、24 時間 365 日利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･日本内科学会指導医が 3 名在籍しています。 ･臨床研修センタースタッフが、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図り専攻医のスムーズな研修を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）しています。 ･CPC を定期的に開催しています。 ･地域参加型のカンファレンス（病診・病病連携カンファレンス）を定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	松田　光弘 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は南河内南部に位置し、病床数は 370 床で HCU4 床を有し、南河内南部の急性期医療を担っています。地域の内科 2 次外科 2 次の救急症例を受け入れ、全人的で EBM に基づいた医療を実践し、「患者本位の医療」を行っています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3 名 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会専門医 3 名・内指導医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名・内指導医 2 名
外来･入院 患者数	内科系外来患者 61,303 名（年間・内消化器内科 16,967 名） 内科系入院患者数 28,236 名（年間・内消化器内科 12,038 名）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、消化器疾患の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

社会医療法人きつこう会 多根総合病院

認定基準【整備基準24】1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・多根病院常勤医師として、法人の規定に則り労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接地（徒歩約2分）に院内保育所があり、事前手続きにより利用可能です。
認定基準【整備基準24】2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は15名在籍しています。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に、臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。

認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器，循環器、代謝、呼吸器、血液、神経、膠原病、感染症、アレルギー、および救急で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほとんどの疾患群（少なくても定常的に 60 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検数を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会および治験管理委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表をしています。
指導責任者	赤峰　瑛介（内科教育責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院のプログラムでは、急性期を中心に病病または病診連携を経て、回復期、さらには慢性期医療まで幅広く経験を積むことができます。地域基幹病院での研修を通し地域包括ケアシステムの概念と現状を学び、当院のスローガンである全人的医療、シームレスな医療を実践できる内科専門医を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名 日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器病専門医 10 名 日本消化器内視鏡学会専門医 11 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 8 名 日本臨床腫瘍学会専門医 1 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医 1 名 日本超音波医学会専門医 1 名 日本肝臓学会専門医 4 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本大腸肛門病学会専門医 2 名
外来･入院 患者数	外来患者 9,952 名（延べ数 1 ヶ月平均）　入院患者 819 名（実数 1 ヶ月平均）
経験できる疾患	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、

群	70 疾患群の症例の殆どを幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	中小規模病院として、急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本栄養療法推進協議会　NST 稼動施設 日本栄養治療学会　NST 稼働施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電図学会認定不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度による研修教育病院 日本神経学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本胆道学会指導施設 日本膵臓学会認定指導施設

耳原総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室と院内 Wi-Fi を用いたインターネット環境があります。 ･耳原総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。(法人中央労働安全衛生委員会) ･ハラスメント委員会が同仁会本部に整備されています。(法人セクハラ委員会) ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。

	·敷地に近接して院内保育所があり、利用可能です。(月曜～日曜まで対応)
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は 16 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2022 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度開催)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ·特別連携施設の専門研修では、電話や耳原総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上） で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記)。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度実績 12 回）しています。 ·学術委員会を設置し、年報、医報の発行を行います。 ·すでにリサーチに取り組んでいる部署のひとつとして、HPH 委員会があり、2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019 年連続して国際 HPH カンファレンスでの発表を行っています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 6 演題以上 (2022 年度実績 10 演題）の学会発表をしています。
指導責任者	川口　真弓
指導医数	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名

（常勤医）	日本消化器病学会専門医 3 名（指導医 1 名） 日本循環器学会専門医 3 名（指導医 2 名） 日本インターベンション学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名（指導医 1 名） 日本腎臓病学会専門医 2 名（指導医 2 名） 日本透析学会専門医 1 名 日本血液内科学会専門医 1 名ほか
外来･入院 患者数	外来患者 11,864 名（平均延数／月）入院患者 9,349 名（平均数／月
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会認定準教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設　など

城山病院

認定基準【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹病院で日本医療機能評価機構認定施設です。 ・研修に必要な図書、メディカルオンラインや医中誌 Web など書籍を多数用意しています。また、インターネット環境を整備しています。 ・城山病院常勤医師としての労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（人事総務課）があります。 ・ハラスメントに関する委員会を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、個別のデスクが整備されています。また、シャワー室、当直室も整備しています。 ・敷地内に 24 時間体制の託児施設があり、利用可能です。

認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策研修会を年 2 回開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保します。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保します。 ・地域参加型のカンファレンス（病診・病病連携カンファレンス 3 回）を定期的に開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器、消化器および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を 診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会あるいは同地方会に年 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	嶋田芳久 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は大阪府南東部（羽曳野市：南河内 2 次医療圏）に位置し、病床数は 299 床で ICU8 床を有し、南河内医療圏の急性期および救急医療を担っています。 特にサブスペ領域の循環器、消化器において十分な症例数があります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本消化器病学会専門医 4 名・指導医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名・指導医 2 名
外来･入院 患者数	内科系外来患者数　2,713 名（1 ヶ月平均）　内科系入院患者数　188 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	循環器科、救急科に必要な疾患群の症例を症例を経験する事ができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設

城山病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・済生会兵庫県病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が9名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（２０２５年度実績　医療倫理１回、医療安全２回、感染対策２回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設と連携して研修プログラムを整備します。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行います ・ＣＰＣを定期的に開催しています。 ・地域の医療機関と連携して地域参加型の研究会・カンファレンスを定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・当院では循環器、消化器、呼吸器、救急の分野での専門研修が可能な症例数を定常的に診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表、地域の医療機関と連携して循環器・消化器の研究会を年間で計６回以上開催し、臨床研修をおこなっています。 ・倫理委員会が設置されています。
指導責任者	松田　祐一 【内科専攻医へのメッセージ】 　済生会兵庫県病院は神戸市北神医療圏唯一の急性期総合病院であり、地域の中核病院として日常良く遭遇する一般的な疾病から高度な医療を必要

	とする疾病まで、多彩な症例を経験することができます。内科各診療科は Subspecialty 領域のみに特化しない基本的内科診療を分担して行い、まさしく内科専門研修の理念に合致した内科診療を行っています。中規模病院の特性として各診療科間の垣根がなく，各科の協力連携のもと豊富な臨床経験を持つ指導医の下で有意義な研修を行っています。専攻医の定数も少数のため各自が経験できる症例や手技が潤沢に確保され、しかも日常臨床に忙殺されることなく自己学習に充てる時間も十分確保できます。当内科専門研修プログラムは、特徴的な連携施設群から構成され、当院で充足できない研修については、強力な連携施設群で補う万全の体制を敷いています。神戸市郊外の近代的なニュータウンという抜群の環境での研修生活が皆さんを待っています。
指導医数 （常勤医）	・日本内科学会指導医 9 名 ・日本内科学会総合内科専門医 12 名 ・日本消化器病学会消化器専門医 3 名 ・日本循環器学会循環器専門医 7 名 ・日本心血管カテーテル治療学会専門医 1 名 ・日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 ・日本消化器内視鏡学会指導医 1 名 ・日本呼吸器学会認定専門医 2 名　ほか
外来･入院 患者数	内科外来患者 3,315 名（1 ヶ月平均）　内科入院患者実数 218 名（1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	主として循環器・消化器・呼吸器及び救急分野の症例を十分経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本消化器病学会認定施設 ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・日本呼吸器学会特別連携施設 ・日本呼吸器内視鏡学会関連施設

済生会兵庫病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・済生会兵庫県病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が9名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（２０２５年度実績　医療倫理１回、医療安全２回、感染対策２回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設と連携して研修プログラムを整備します。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行います ・ＣＰＣを定期的に開催しています。 ・地域の医療機関と連携して地域参加型の研究会・カンファレンスを定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	当院では循環器、消化器、呼吸器、救急の分野での専門研修が可能な症例数を定常的に診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表、地域の医療機関と連携して循環器・消化器の研究会を年間で計６回以上開催し、臨床研修をおこなっています。 ・倫理委員会が設置されています。
指導責任者	松田　祐一 【内科専攻医へのメッセージ】 　済生会兵庫県病院は神戸市北神医療圏唯一の急性期総合病院であり、地域の中核病院として日常良く遭遇する一般的な疾病から高度な医療を必要とする疾病まで、多彩な症例を経験することができます。内科各診療科はSubspecialty 領域のみに特化しない基本的内科診療を分担して行い、まさしく内科専門研修の理念に合致した内科診療を行っています。中規模病院の特性として各診療科間の垣根がなく，各科の協力連携のもと豊富な臨床

	経験を持つ指導医の下で有意義な研修を行っています。専攻医の定数も少数のため各自が経験できる症例や手技が潤沢に確保され、しかも日常臨床に忙殺されることなく自己学習に充てる時間も十分確保できます。当内科専門研修プログラムは、特徴的な連携施設群から構成され、当院で充足できない研修については、強力な連携施設群で補う万全の体制を敷いています。神戸市郊外の近代的なニュータウンという抜群の環境での研修生活が皆さんを待っています。
指導医数 （常勤医）	・日本内科学会指導医 9 名 ・日本内科学会総合内科専門医 12 名 ・日本消化器病学会消化器専門医 3 名 ・日本循環器学会循環器専門医 7 名 ・日本心血管カテーテル治療学会専門医 1 名 ・日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 ・日本消化器内視鏡学会指導医 1 名 ・日本呼吸器学会認定専門医 2 名　ほか
外来･入院 患者数	内科外来患者 3,315 名（1 ヶ月平均）　内科入院患者実数 218 名（1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	主として循環器・消化器・呼吸器及び救急分野の症例を十分経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本消化器病学会認定施設 ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・日本呼吸器学会特別連携施設 ・日本呼吸器内視鏡学会関連施設

ツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和８年４月現在）

ツカザキ病院

楠山　貴教　（プログラム統括責任者、プログラム管理者，委員長，総合内科分野責任者）
萩倉　新　　（循環器分野責任者）
路川　陽介　（消化器分野責任者）
朝山　真哉　（神経分野責任者）
重本　亮　　（総合内科分野責任者）
森崎　鉄平　（事務局代表）
岸本　太輔　（臨床研修センター事務担当）

オブザーバー

内科専攻医代表　中谷　美紗子

連携施設担当委員

姫路医療センター 和泉　才伸
姫路赤十字病院　筑木　隆雄
姫路聖マリア病院　松村　正
兵庫県立はりま姫路総合医療センター　大内　佐智子
井野病院　森本　真輔
中谷病院　中谷　裕司
厚生病院　松下　健次
大阪公立大学医学部附属病院　繪本　正憲
姫路中央病院　田畑　昌子
関西医科大学附属病院　塩島　一朗
北野病院　北野　俊行
愛染橋病院　押谷　伸英
浅香山病院　田原　旭
育和会記念病院　坂本　常守
石切生喜病院　堀尾　武史
泉大津急性期メディカルセンター　田口　晴之
大阪掖済会病院　宇野　裕典
大阪市立十三市民病院　倉井　修
大阪市立総合医療センター　小西　啓夫
市立柏原病院　石津　弘隆

長吉総合病院　大谷　健二郎
なにわ生野病院　亀田　夏彦
馬場記念病院　原　順一
東住吉森本病院　仲川　浩一郎
PL 病院　松田　光弘
南大阪病院　福田　隆
明治橋病院　石村　栄治
ベルランド総合病院　安　辰一
和泉市立総合医療センター　坂口　浩樹
守口生野記念病院　片山　由里
多根総合病院
耳原総合病院　川口　真弓
城山病院　嶋田　芳久
済生会兵庫県病院　林　賢一

特別連携施設担当委員
三栄会広畑病院　坪庭　直樹

ツカザキ病院内科専門研修プログラム

専攻医研修マニュアル

1）専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

①地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）

②内科系救急医療の専門医

③病院での総合内科（Generality）の専門医

④総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

ツカザキ病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして，兵庫県中播磨医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です。

ツカザキ病院内科専門研修プログラム終了後には，ツカザキ病院内科施設群専門研修施設群だけでなく，専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する，または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2）専門研修の期間

原則、基幹施設であるツカザキ病院内科で，専門研修（専攻医）1 年目，3 年目に 2 年間の専門研修を行います。

ツカザキ病院内科専門研修プログラム（ローテーション例）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年目	各科ローテーション中(例)も総合内科外来を受け持ち各専門内科以外の患者も広く受け持つ											
卒後3年	総合内科			循環器内科			消化器内科			神経内科		
	1年目(卒後3年)までにJMECCを受講、初診・再診内科外来/週1回											
2年目	連携研修2年目											
卒後4年										内科専門医取得のための病歴提出		
3年目	総合内科　達成度によってはsubspecialty研修も可能(ローテーション例)											
	循環器内科			神経内科			消化器内科			消化器内科		
卒後5年	初診・再診内科外来/週1回											

3）研修施設群の各施設名（P.19「ツカザキ病院研修施設群」参照）

基幹施設：　社会医療法人三栄会 ツカザキ病院

連携施設：　姫路医療センター
姫路赤十字病院
姫路聖マリア病院
兵庫県立はりま姫路総合医療センター
井野病院
中谷病院
厚生病院
大阪公立大学医学部附属病院
姫路中央病院
関西医科大学附属病院
北野病院
愛染橋病院
浅香山病院
育和会記念病院
石切生喜病院
泉大津急性期メディカルセンター
大阪掖済会病院
大阪市立十三市民病院
大阪市立総合医療センター
長吉総合病院
なにわ生野病院
馬場記念病院

東住吉森本病院
PL 病院
南大阪病院
明治橋病院
ベルランド総合病院
和泉市立総合医療センター
守口生野記念病院
多根総合病院
耳原総合病院
城山病院
済生会　兵庫県病院

特別連携施設：　三栄会広畑病院

4）プログラムに関わる委員会と委員

ツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P.89「ツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

5）各施設での研修内容と期間

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。専門研修 2 年目の 1 年間，連携施設で研修をします（図）。

6）本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設であるツカザキ病院診療科別診療実績を以下の表に示します。ツカザキ病院は地域基幹病院であり，コモンディジーズを中心に診療しています。

＊代謝，内分泌，血液，膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 9 名に対し十分な症例を経験可能です。

subspeciality の専門医は 8 人在籍しています（P.19「ツカザキ病院内科専門研修施設群」参照）。

診療科別	入院患者数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
循環器内科	1,504	5,599
消化器内科	1,388	8,775
神経内科	364	11,546
総合内科・呼吸器	494	4,357

疾患群別	入院患者数（人/年）
総合内科	237
消化器	407
循環器	562
内分泌	1
代謝	42
腎臓	37
呼吸器	230
血液	25
神経	266
アレルギー	13
膠原病	1
感染症	46
救急	349

7）年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず，内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

入院患者担当の目安（基幹施設：ツカザキ病院での一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます。血液・リウマチ，呼吸器，腎臓，糖尿病・内分泌，感染症，総合内科は，適宜，領域横断的に受持ちます。内科領域の患者を分け隔てなく，主担当医として診療します。

8）自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします。

9）プログラム修了の基準

①J-OSLER を用いて，以下のⅰ)～vi)の修了要件を満たすこと。

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます)を経験し，登録済みです（P.99 別表 1「ツカザキ病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照)。

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています。

iii）学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります。

iv）JMECC 受講歴が 1 回あります。

v）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります。

vi）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます。

②当該専攻医が上記修了要件を充足していることをツカザキ病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約 1 か月前にツカザキ病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります。

10）専門医申請にむけての手順

①必要な書類

i）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii）履歴書

iii）ツカザキ病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

②提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11）プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従う（P.19「ツカザキ病院研修施設群」参照）。

12）プログラムの特色

①本プログラムは，兵庫県中播磨医療圏西部の中心的な急性期病院であるツカザキ病院を基幹施設として，兵庫県中播磨医療圏にある連携施設と関西広域の種々の機能を持つ連携施設共同で内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は原則基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間です。

②ツカザキ病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

③基幹施設であるツカザキ病院は，兵庫県中播磨医療圏西部の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です。一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

④基幹施設であるツカザキ病院での 1 年間と連携施設での 1 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます。そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.99 別表「ツカザキ病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。

⑤ツカザキ病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 2 年目の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します。

⑦ 基幹施設であるツカザキ病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（別表 1「ツカザキ病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を主担当医として経験し，J-OSLER に登録します。

13）継続した Subspecialty 領域の研修の可否

・カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として，Subspecialty 領域の研修につながることはあります。

・カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます。

14）逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います。その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，ツカザキ病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15）研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

16）その他

特になし。

ツカザキ病院内科専門研修プログラム

指導医マニュアル

1）専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人がツカザキ病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。

・担当指導医は，専攻医が web にて J-OSLER にその研修内容を登録するので，その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

・担当指導医は，専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群，症例の内容について，都度，評価・承認します。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います。

・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います。

2）専門研修の期間

・年次到達目標は，P.99 別表 1「ツカザキ病院内科専門研修において求められる「疾患群」,「症例数」,「病歴提出数」について」に示すとおりです。

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します。また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います。評価終了後，1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い，形成的に指導します。2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られ

たか否かを含めて，担当指導医はフィードバックを形成的に行って，改善を促します。

3）専門研修の期間

・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。
・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて，当該患者の電子カルテの記載，退院サマリ作成の内容などを吟味し，主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし，担当指導医が承認を行います。
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として，担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除，修正などを指導します。

4）J-OSLER の利用方法

・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
・担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
・専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
・担当指導医は，J-OSLER を用いて研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断します。

5）逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき，ツカザキ病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6）指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて，臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で，J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基にツカザキ病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7）プログラムならびに各施設における指導医の待遇

ツカザキ病院給与規定によります。

8）FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います。

9）日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し，形成的に指導します。

10）研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11）その他

特になし。

別表１　ツカザキ病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標

内科専攻研修において求められる「疾患群」,「症例数」,「病歴提出数」について

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

※1　消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて,「消化管」,「肝臓」,「胆・膵」が含まれること。

※2　修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが，他に異なる15疾患群の経験を加えて，合計56疾患群以上の経験とする。

※3　外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4　「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例）「内分泌」2例+「代謝」1例,「内分泌」1例+「代謝」2例

※5　初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。

別表 2

ツカザキ病院内科専門研修　週間スケジュール（例）

	AM	PM		
	8：40-	12:45-13:20	13:30-	17:00-
月曜	外来，病棟，検査	カンファレンス	病棟，検査	勉強会
火曜	外来，病棟，検査	カンファレンス	病棟，検査	
水曜	外来，病棟，検査	カンファレンス	病棟，検査	
木曜	外来，病棟			
金曜	外来，病棟，検査	カンファレンス	病棟，検査	
土曜	外来，病棟			

★ツカザキ病院内科専門研修プログラム　４。専門知識・専門技能の習得計画　に従い，内科専門研修を実践します。

･上記はあくまでも例：概略です。内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより，担当する業務の曜日，時間帯は調整・変更されます。

･病棟診療には，内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます。

･日当直やオンコールなどは，内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します。

･地域参加型カンファレンス，講習会，研修センター，学会などは各々の開催日に参加します。